

資料 2

滋賀県立美術館現況



令和5年(2023年)7月3日
美術館魅力向上検討部会 第1回会議



Shiga Museum of Art
滋賀県立美術館

1 滋賀県立美術館の概要

1 立地の特徴

- 大津市南部瀬田丘陵に広がる、滋賀県営都市公園「びわこ文化公園」に立地する、緑豊かな環境の中の郊外型美術館
- 同公園内には、大型遊具のある原っぱや日本庭園、茶室などがあるほか、県立図書館、県立埋蔵文化財センターなどの文化施設が立地しており、それらを目的に訪れる県民も多い。
- 大津市・草津市にまたがる近隣エリア一帯は昭和50年代から滋賀県が「びわこ文化公園都市」として開発を行い、立命館大学、龍谷大学、滋賀医科大学のほか、医療福祉施設や、県立アリーナをはじめとしたスポーツ施設など数多くの施設が集積している。
- 大津市・草津市は全国でも有数の人口増加地域であり、さらに、年齢分布で20歳未満の若年層の割合が高いことが特徴。
(人口：大津34.1万人、草津13.7万人／人口増加率(2005-2015)：大津1.1%、草津13.2%、全国▲1.7%／20歳未満比率：大津18.2%、草津19.8%、全国15.9%)
- 名神、新名神、京滋バイパスの各インターチェンジから近く、自動車交通の結節点に位置する

美術館近隣地域(びわこ文化公園都市)施設立地地図



2 沿革

- 1984（昭和59）年 開館
- 1987（平成 9）年 教育委員会から知事部局に移管
- 2013（平成25）年 新生美術館基本計画（琵琶湖文化館の機能を統合した美術館の拡張整備計画）を策定
- 2017（平成29）年 新生美術館基本計画に基づく増築改修工事の準備のため長期休館に入る／本体工事入札が不落
- 2018（平成30）年 県として新生美術館整備の方針変更を表明
- 2020（令和 2）年 リニューアル整備（老朽化対策工事）着手
- 2021（令和 3）年 名称を「滋賀県立近代美術館」から「滋賀県立美術館」に変更し、6月に約4年振りに再開館

3 施設概要

開 館：昭和59年(1984年)8月（竣工：昭和58年(1983年)10月）

施設構造：鉄筋コンクリート（一部鉄骨造）地上 2 F、地下 1 F

総 工 費：約35億円

施設規模：延床面積 8,544.43㎡ 建築面積 6,772.73㎡

主な施設：常設展示室（2室計869㎡）、企画展示室（896㎡）、収蔵庫（3室計849㎡）、ギャラリー(478㎡)、木のホール、ワークショップルーム 等

4 リニューアル整備（2020年度）

新生美術館の計画を白紙化したことから、特に安全対策や展示環境、来館者利便性等の面での喫緊の課題に対応し、現代の美術館に求められる水準に向上させるため、それらに対応する老朽化対策を中心とした改修工事を実施した。

工事期間：2020（令和2）年3月～2021（令和3）年5月

内 容：改修工事（建築工事、電気設備工事、機械設備工事各一式）（工事費約11億円）

※詳細は次ページ

2020年度リニューアル整備（老朽化対策工事）の主な内容

① 作品の魅力をより楽しめる

- 各展示室内装（天井・床・壁面）の張替
- 作品を守り演出効果の高いLED照明の導入
- 快適な鑑賞のための壁面ガラスケースの低反射施工
- ギャラリーの展示壁クロス張替とスポットライト導入

多様なテーマやジャンルの美術表現に対応できる
展示室3



主に現代美術の展示を行う
展示室2



主に日本画や工芸などの展示を行う
展示室1



屋外に椅子やテーブルを配置し公園利用者を館内に誘う
エントランス前

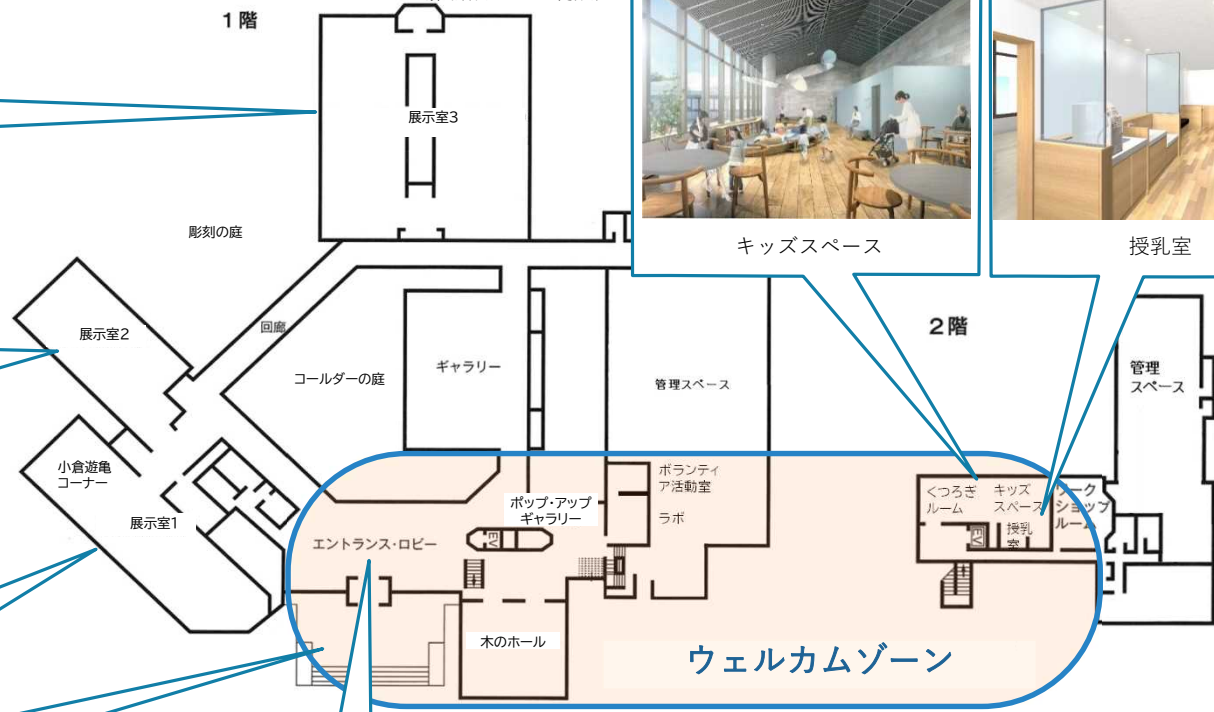


カフェやショップ、情報コーナーが配置される
エントランスロビー

② 人と作品の安全を守る

- 万一の場合も作品を守るガス消火設備を各展示室に導入
- エントランス・ロビー天井の耐震化
- 老朽化した空調機器の更新
- 防火シャッターの改修
- セキュリティ向上のための扉新設や電子錠設置

1階



キッズスペース



授乳室

③ みんなにやさしく使いやすい

- 授乳室や親子で使えるファミリートイレの新設
- 各トイレの全面改修（洋式化）
- 誰もがわかりやすい案内表示に更新

④ 賑わいのある美術館へ

エントランス・ロビーおよびその周辺を、美術館と来館者の出会いや交流の場となる「**ウェルカムゾーン**」と位置づけ、統一的なコンセプトでデザインされた空間として整備する。多くの利用者が美術館で過ごす時間を楽しみ、居心地の良さを感じてまた来たいと思っただけのことを目指す。

（デザイン統括・内装設計 graf, グラフィック・サイン計画 UMA/design farm）

- ロビー内に美術や滋賀に関連した商品・情報を提供するカフェやショップ、情報コーナーを設置
- 小規模なイベントや展示に活用できる多目的スペース（ラボ）やボランティア活動室の新設
- 滋賀県産の素材を活用したテーブルやベンチ等を館内とエントランス前や中庭など屋外にも配置
- 親子連れで利用いただきやすくなるよう、キッズスペースや授乳室、ファミリートイレ等を新設
- 県内作家が小規模な展示や販売を行うことができるミニギャラリーを整備

2 ミッション

私たち滋賀県立美術館は、1984年に滋賀県立近代美術館として開館しました。収蔵点数は2020年3月現在で1,786件と県立の美術館としては比較的小さい規模ではありますが、日本画家の小倉遊亀や染織家の志村ふくみのコレクションは国内随一を誇っています。また、マーク・ロスコやロバート・ラウシェンバーグなど、いわゆる戦後アメリカ美術を代表する作家の良作を収蔵していることでも知られていますし、2016年からは、アール・ブリュットの作品の収集もスタートさせました。教育普及活動でも、開館当初から実施しているワークショップやアートゲームを用いた鑑賞教育などの先進的な取り組みは、全国に誇れるものです。

改修工事のための一時休館を経て、2021年6月に再開館するにあたり、私たちは「かわる、かかわる」をコンセプトに歩みだします。まず、私たちは時代や傾向を限定することになる「近代」を、館名から外します。今日の美術館のミッションは、「人がつくった様々なものに触れることを通じて、社会や環境の多様性をより深く感じられる場をつくること」にあると考えるからです。滋賀県立美術館は、そのミッションを実践していくために以下のことを行っていきます。

創造 (Creation) と問いかけ (Ask)

滋賀を中心にして、障害のあるなしに関係なく、また、ジェンダーバランスにも留意しながら、創造の場を支えます。その上で、「アートって、人間にとってなんなんだろうか」という問いを考えたいような展示を実施するとともに、これまで以上にユニークなコレクションをつくりあげていきます。

地域 (Local) と学び (Learning)

「滋賀って面白い！」と皆が言いたくなるように、県内の個人や企業・団体の協力を得ながら、地域の多様な魅力をリサーチして広く発信します。また、県民を中心に、子どもから大人まで、ビギナーから学者まで、ユニバーサルの理念のもとに、一人ひとりの学びに貢献するプログラムを実施します。

これら「創造 (Creation)」「問いかけ (Ask)」「地域 (Local)」「学び (Learning)」の4つ (CALL) を軸にすることで、滋賀県立美術館は、これからますます変動していく社会に対しても、柔軟にかわりながらかわり続けることができるはずで、そして、この「つねにフレッシュなミュージアム」というモデルを滋賀から発信し、今後の展開へと結びつけたいと考えています。

■経営方針

- ◇多様な利用者や県民への美術館機能の提供と満足度の向上
- ◇より多くの個人や法人からの共感・支援の輪を広げることによる持続的な運営努力
- ◇地域の現場や県内外の関係機関との有機的な連携・協働
- ◇作品保全・展示・鑑賞環境の確保とさらなる充実

■事業方針

美術館の活動の根幹となる調査や研究の成果に基づいて、以下の事業を行います。

□美術品収集事業

- ◇すでに形成されている以下の特色あるコレクションの拡充
 - ①日本美術院を中心とした近代日本画
 - ②滋賀ゆかりの美術・工芸等
 - ③戦後アメリカと日本の現代美術
- ◇すでにあるコレクションを相対化するための以下の作品の収集
 - ①アール・ブリュット
 - ②芸術文化の多様性を確認できるような作品
- ◇コレクションを良好な状態で次代に継承するための管理と修復

□展覧会開催事業

- ◇以下の方針を軸とした展覧会および関連事業の企画・実施
 - ①特色あるコレクションの活用
 - ②創造現場との積極的な交流
 - ③地域ゆかりの文化財等滋賀の多様な文化の紹介
 - ④他機関との協働による研究成果の発信等
 - ⑤建築、舞台芸術、音楽、写真、文学等他ジャンルとの交差

□教育・コミュニケーション事業

- ◇以下の方針を軸とした教育・コミュニケーション活動の企画・実施
 - ①学校現場と連携した美術教育プログラム
 - ②様々なニーズや世代にあわせた鑑賞・体験プログラム
 - ③館内や地域での活動のパートナーとなるボランティア制度の充実
 - ④地域の団体や、大学、企業等と連携して行う取り組み
 - ⑤美術館のファンやリピーターの獲得を目指すメンバーシップ制度

□社会とのかかわり

- ◇SDG s や共生社会の実現に貢献する活動
- ◇経済界や観光等との連携による滋賀の活性化に資する活動
- ◇県民や団体による創作活動の発表の場としてのギャラリー運営

□リンクと発信

- ◇びわこ文化公園の立地環境を活かした取組や連携
- ◇(仮称)新・琵琶湖文化館と連携した活動
- ◇県内の美術系ミュージアムや関西・中部圏のミュージアムと連携した活動
- ◇県内外、さらには海外も視野に入れた情報発信による美術館と滋賀の認知度の向上

3 運営状況

■利用者数

□ 展覧会観覧者数 R4年度 延べ70,523人

□ 観覧者のうち中学生以下の割合は休館前より大きく増加 (3.8%→9.4%)

年度	展覧会観覧者数							教育・交流事業 (c)	利用者数計 (a)+(b)+ (c)	県美メンバー ズ会員数 (※)
	常設展 (a)	企画展 (b)	計 (a)+(b)	開催日 数	1日平 均	うち中 学生以 下	うち中 学生以 下			
R3年度 (R3.6.27~)	22,475	29,605	52,080	183	285	9.7%	5,044	4,109	56,189	1,144
R4年度 (R4.4.1~)	36,404	34,119	70,523	296	238	9.4%	6,656	16,343	86,866	1,044
R4年度目標			70,000		-	-		45,000	115,000	-
R7年度目標	40,000	60,000	100,000		-	-		60,000	160,000	-
H28年度実績	24,061	36,821	60,882	273	223	3.8%	3.8%	49,328	110,210	310

※ H28年度は旧近代美術館友の会員数

■アンケート結果

※H28年度は「つながる美・引き継ぐ心」展の際のアンケート結果

□ 来館満足度が向上 (大変良かった・良かった 77.9%→91.0%)

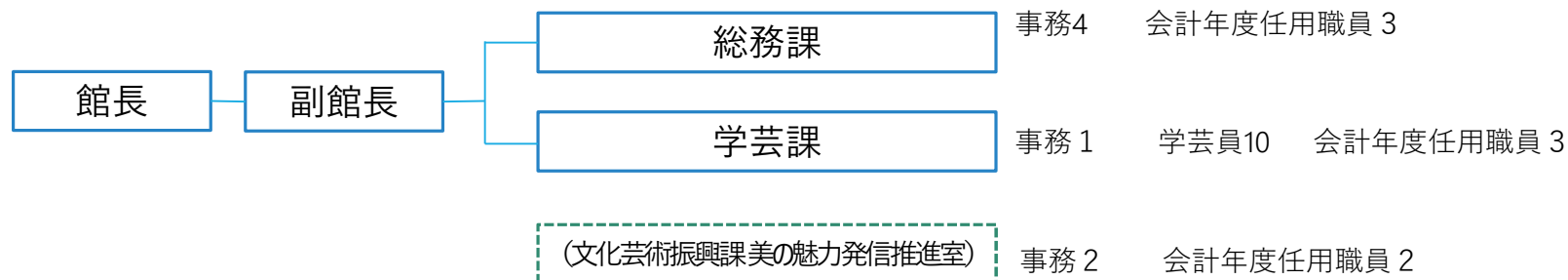
(※) R7年度目標 90%以上

美術館の印象						居住地		
	大変良かった	良かった	普通	あまり良くない	良くない・その他		県内	県外
R3	40.9%	43.2%	13.2%	1.8%	1.0%	R3	63.3%	36.6%
R4	49.6%	41.4%	6.0%	2.3%	0.7%	R4	50.8%	49.2%
H28	33.8%	44.1%	10.3%	0.0%	11.7%	H28	57.2%	42.6%

4 組織・施設

組織体制

(2023年4月1日現在)



※県文化芸術振興課の滋賀の文化資源の活用・発信を所管する室が美術館内に常駐し、美術館と連携しながら取組を行っている

施設管理

長期休館中の2020年度に老朽化対策やウェルカムゾーンの整備を中心とした改修工事を行ったところであるが、昭和59年（1984年）の開館から40年近くが経過しており、良好な展示保存環境の維持や安全性の確保のため、今後も継続的な施設・設備の改修を行う必要がある。

□令和4年~5年度に予定している長寿命化対策工事（主なもの）

作品用エレベーター改修工事（既存不適格となっている作品輸送用大型エレベーターの更新）

空調改修工事（空調用冷温水ポンプやAHUの一部更新）

屋根・外壁工事（老朽化が進行している屋根や外壁の防水等対策工事）

文化庁 公開承認施設の更新

文化庁が国宝・重要文化財の展示公開にふさわしいと認定した施設である「公開承認施設」については、5年に1度更新が必要があるが、当館の重要文化財の展示や、施設改修・維持管理等の実績が認められ、令和3年12月に更新の認定を受けた。

■当初予算額（単位：千円）

	平成28年度 (休館前最終年度)	令和4年度	令和5年度	主な内訳
管理運営費	103,308	170,080	155,941	施設管理、空調費、修繕費ほか
美術品収集事業費	12,915	13,300	13,000	作品購入（3,800千円）、作品修復、点検 ほか
展覧会開催事業費	62,277	96,496	82,631	常設展、企画展、次年度準備、展示監視 ほか
情報普及事業費	14,830	17,395	13,964	広報、美術教育、講座・ワークショップ開催 ほか
合 計	193,330	298,271	265,536	
(うち特定財源) ※1	40,942	55,959	34,233	観覧料収入、寄付金、助成金ほか
(うち一般財源)	152,388	242,312	271,753	県費負担

※1 うち、展覧会観覧料収入 令和3年度実績 17,236千円 令和4年度予算額 28,395千円 令和5年度予算額 20,215千円

※2 主な助成金

令和3年度 文化庁文化芸術創造拠点形成事業 等

令和4年度 一般財団法人地域創造 公立美術館共同巡回展開催助成事業（山元春挙展）、文化庁文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業 等

5 コレクションと作品収集

当館の収集方針に基づき、継続的に作品収集を行っている。

■ 作品収集方針

- ① 日本美術院を中心とした近代日本画
- ② 滋賀県ゆかりの美術・工芸等
- ③ 戦後アメリカと日本の現代美術
- ④ アール・ブリュット
- ⑤ 芸術分野の多様性を確認できるような作品

1984年の開館以来、①から③の3本の収集方針を軸に作品を収集。2016年からは④、さらに、2021年のリニューアルに際し⑤を加え、より幅広い芸術分野の発信と継承に努めている。

中でも、重要文化財《近江名所図》のほか、滋賀県出身で日本画家の小倉遊亀（60件）、染織家の志村ふくみ（169件）、マーク・ロスコをはじめとしたアメリカ美術、澤田真一をはじめとしたアール・ブリュットのコレクションで知られている。

■ 作品収集状況（2023年3月現在）

部 門	作品件数
日本画・郷土	1,283
現代美術	524
アール・ブリュット関連	182
屋外彫刻	6
合 計	1,995

【令和5年度当初予算 作品購入費3,800千円】
アール・ブリュット関連をはじめ、他の分野についても継続的に収集を行い、コレクションを充実させる方針。

6 展覧会の開催

■2021（令和3）年度開催状況

内装を全面改修した展示室で、リニューアルを記念した企画展を3回開催したほか、常設展についても展示ごとのテーマを設定し、コレクションを中心に展示を行った。

区分	名称	展示室	会期	開催日数	観覧者数	1日あたり観覧者数	有料率(%)	目標観覧者数	期間中 来館者数
企画	Soft Territory かかわりのあわい	2・3	6月27日(日)ー8月22日(日)	48	9,132	190	73.4	12,000	23,668
常設	ひらけ！温故知新 ー重要文化財・桑実寺縁起絵巻を手がかりにー	1	6月27日(日)ー8月22日(日)	48	11,657	243	68.9		
企画	ボイスオーバー 回って遊ぶ声	1・2・3・ ギャラリー	9月18日(土)ー11月14日(日)	50	9,596(※1)	192	40.7	14,000	15,231
共催	第75回 滋賀県美術展覧会	3・ ギャラリー	12月9日(木)ー12月22日(水)	10	3,162	316			3,760
常設	野口謙蔵 生誕120年展	2	12月7日(火)ー2月20日(日)	53	6,255	118	29.4		10,418
常設	昔の滋賀の暮らし	1							
企画	人間の才能 生み出す ことと生きること	3	1月22日(土)ー3月27日(日)	56	7,715	138	77.4	10,000	15,516
常設	名品選Ⅰ・Ⅱ(※2)	1・2	3月12日(土)ー3月31日(木)	17	4,563	268			
					計	52,080			

※1 フリーサンデー等による展示室1・2のみの観覧者数を含んだ数。展示室3を含む展覧会全体を観覧した人数は5,626人

※2 令和4年3月31日までの観覧者数

■2022（令和4）年度開催状況

企画展4本のほか、常設展についても展示ごとのテーマを設定し、通年展示を行った。

区分	名称	展示室	会期	開催 日数	観覧者数	1日あたり 観覧者数	有料率 (%)	目標 観覧者数	期間中 来館者数
企画	生誕150年山元春挙展	3	4月23日(土)–6月19日(日)	50	7,955	159	66.8	12,000	61,520
企画	塔本シスコ展 シスコパラダイス かかずにはいられない！人生絵日記	3	7月9日(土)–9月4日(日)	50	10,345	207	72.8	15,000	
企画	石と植物	3	9月23日(金・祝)–11月20日(日)	51	3,256	64	65.8	8,000	
共催	第76回 滋賀県美術展覧会	3・ ギャラリー	12月8日(木)–12月21日(水)	10	2,856	286	0		
企画	川内倫子M/E 球体の上 無限の連なり	3	1月21日(土)–3月26日(日)	56	9,707	173	83.1	15,000	
常設	名品選Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	1・2	4月1日(金)–7月18日(月・祝)	296	36,404	165		30,000	
	郷土ゆかりの画家（油彩）	1	7月23日(土)–10月16日(日)						
	信楽焼と滋賀の人間国宝たち	1	10月18日(火)–11月27日(日)						
	シュウカツ！ （休館中の新収蔵作品を中心に）	2	7月23日(土)–12月21日(水)						
	（護る、伝える、保存修理活動）	1	11月29日(火)–1月29日(日)						
（収集活動より–女性を描く中村貞以–）	1	1月31日(火)–3月12日(日)							
計					70,523				

■2023（令和5）年度開催状況

区分	名称	展示室	会期	開催 日数	観覧者数	1日あたり 観覧者数	有料率 (%)	目標 観覧者数	期間中 来館者数
企画	小倉遊亀と日本美術 院の画家たち展	3	4月29日(土)–6月18日(日)	44	5,301	120	75.4	10,000	9,068

■ 2022（令和4）年度 企画展来館者アンケート結果

1 年代

	10代未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	計	40代以下	50代以上
山元春拳展	2 0.7%	2 0.7%	15 5.4%	23 8.2%	21 7.5%	51 18.3%	80 28.7%	75 26.9%	10 3.6%	279	63 22.6%	216 77.4%
塔本シスコ展	6 2.0%	8 2.6%	17 5.6%	17 5.6%	48 15.8%	69 22.7%	74 24.3%	57 18.8%	8 2.6%	304	96 31.6%	208 68.4%
石と植物	4 2.2%	7 3.9%	6 3.4%	16 9.0%	31 17.4%	35 19.7%	35 19.7%	32 18.0%	12 6.7%	178	64 36.0%	114 64.0%
川内倫子展	5 2.5%	4 2.0%	30 15.2%	35 17.8%	50 25.4%	36 18.3%	22 11.2%	12 6.1%	3 1.5%	197	124 62.9%	73 37.1%
合計	17 1.8%	21 2.2%	68 7.1%	91 9.5%	150 15.7%	191 19.9%	211 22.0%	176 18.4%	33 3.4%	958	347 36.2%	611 63.8%

2 居住地

	大津	湖南	甲賀	東近江	湖東	湖北	高島	京都市	他京都	大阪	近畿	中部	中国	四国	九州	関東	東北	北海道	合計	県内	県外
山元春拳展	80 28.8%	48 17.3%	4 1.4%	19 6.8%	6 2.2%	7 2.5%	1 0.4%	24 8.6%	9 3.2%	24 8.6%	27 9.7%	16 5.8%	2 0.7%	0 0.0%	0 0.0%	11 4.0%	0 0.0%	0 0.0%	278	165 59.4%	113 40.6%
塔本シスコ展	40 13.3%	27 9.0%	6 2.0%	8 2.7%	9 3.0%	4 1.3%	1 0.3%	50 16.7%	19 6.3%	64 21.3%	36 12.0%	28 9.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 2.7%	0 0.0%	0 0.0%	300	95 31.7%	205 68.3%
石と植物	79 44.6%	34 19.2%	1 0.6%	1 0.6%	4 2.3%	4 2.3%	1 0.6%	15 8.5%	7 4.0%	10 5.6%	11 6.2%	6 3.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 2.3%	0 0.0%	0 0.0%	177	124 70.1%	53 29.9%
川内倫子展	29 14.6%	11 5.6%	4 2.0%	4 2.0%	12 6.1%	2 1.0%	1 0.5%	28 14.1%	8 4.0%	38 19.2%	31 15.7%	22 11.1%	4 2.0%	0 0.0%	2 1.0%	2 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	198	63 31.8%	135 68.2%
合計	228 23.9%	120 14.1%	15 1.6%	32 3.4%	31 3.3%	17 1.8%	4 0.4%	117 12.3%	43 4.5%	136 14.3%	105 11.0%	72 7.6%	6 0.6%	0 0.0%	2 0.2%	25 2.6%	0 0.0%	0 0.0%	953	447 46.9%	506 53.1%

3 満足度

	大変良かった	良かった	普通	あまり良くない	良くない	計	良かった以上
山元春拳展	98 36.3%	146 54.1%	15 5.6%	6 2.2%	5 1.9%	270	244 90.4%
塔本シスコ展	162 56.8%	95 33.3%	17 6.0%	8 2.8%	3 1.1%	285	257 90.2%
石と植物	43 26.5%	100 61.7%	16 9.9%	3 1.9%	0 0.0%	162	143 88.3%
川内倫子展	93 50.3%	73 39.5%	10 5.4%	6 3.2%	3 1.6%	185	166 89.7%
合計	396 43.9%	414 45.9%	58 6.4%	23 2.5%	11 1.2%	902	810 89.8%

4 交通手段

	路線バス	自家用車	タクシー	徒歩自転車	その他	計
山元春拳展	75 27.8%	180 66.7%	4 1.5%	16 5.9%	3 1.1%	278
塔本シスコ展	93 32.6%	182 63.9%	10 3.5%	4 1.4%	18 6.3%	307
石と植物	18 11.1%	149 92.0%	0 0.0%	8 4.9%	2 1.2%	177
川内倫子展	78 42.2%	111 60.0%	2 1.1%	5 2.7%	4 2.2%	200
合計	264 27.4%	622 64.7%	16 1.7%	33 3.4%	27 2.8%	962

7 教育・交流事業

■地域連携プログラム

遠隔地を含めて県内の多くの方に美術の楽しさを知っていただく機会を提供し、今後の来館にもつながるよう、県内各地の学校や施設に職員が出向き、講座やワークショップを行っている。

プログラム実施実績

区 分	令和 3 年度		令和 4 年度		実施場所・内容
	回数	参加者数	回数	参加者数	
①学校出前授業プログラム	32	1,601人	25	1,602人	小学校、中学校、特別支援学校、高等学校等における鑑賞教育や創作体験の出前授業
②地域出前プログラム	13	620人	14	543人	児童クラブ、保育所、集会施設等における講座やワークショップの開催
合 計	45	2,221人	39	2,145人	

■学校団体鑑賞

学校行事として当館の展示を観覧する学校団体を受け入れている。

区 分	令和 3 年度		令和 4 年度		実施場所・内容
	回数	参加者数	回数	参加者数	
学校団体鑑賞	10	403人	42	1,701人	小学校、中学校、特別支援学校、高等学校等における団体鑑賞受入れおよびワークショップ（希望団体のみ）の開催（生徒・引率者：観覧料免除）

■ 美の糸口ーアートにどぼん！（ワークショップシリーズ）

美術館と県内の施設、団体、作家等が提供するアートやものづくりの楽しさを体験できるワークショッププログラム。

休館中は年1回県内を巡回しフェスティバル形式で開催していたが、再開館に伴い、美術館を中心に公園内や隣接の図書館等とも連携し、週末を中心に通年開催するシリーズ形式で展開している。

（令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で令和3年10月から開催）

プログラム実施実績

区分	実施主体と内容	R3年度	R4年度
美術館プログラム	美術館が企画・実施する、展覧会やコレクション、季節に関連付けた創作体験プログラム 「みどりのつどいチョークアート」、「木の間に描こう」、「ぺたぺたーとでもりづくり」など	7回	20回
連携プログラム	県内各地の作家や施設が提供し美術館内で実施するプログラム 「イロ遊び麻のハンカチーフ染め」、「現れる彫刻をつくろう！」など	10回	6回
公園プログラム	びわこ文化公園管理事務所が実施する野外活動中心のプログラム 「レンコンスタンプで作るオリジナルバッグ」、「しまっちとしぜんとあそぼ！」など	4回	10回
図書館プログラム	隣接する県立図書館が実施する読み聞かせや手遊びのプログラム 「おはなし会」	6回	11回
埋文プログラム	埋蔵文化財センターが実施する体験型プログラム 「勾玉づくり体験」「鋳造体験」「染め物体験」など	0回	4回
合 計		27回	51回



「チョークアート」
（実施：滋賀県立美術館）



夏休みイベント「ぺたぺたーとでもりづくり」
（実施：滋賀県立美術館）



「現れる彫刻をつくろう！」
（実施：シャボン玉研究所）

■美術館ボランティア

2022年に募集・登録したボランティアが、現在「学校団体ガイドボランティア」「ワークショップボランティア」「資料整理ボランティア」の3つの活動を行っている。2024年からの対話鑑賞の導入に向け研修を行っている。

□登録人数：35人（19～79歳）

□活動について

- ・学校団体ガイドボランティア：学校団体鑑賞の際に美術館職員とともに美術館でのマナーを伝え、子どもたちと作品の安全を守りながら展示室を一緒にまわる。
(実施件数：6件)
- ・ワークショップボランティア：美術館が主催するワークショップの準備や当日のサポートスタッフとして活動。学校団体鑑賞とセットになったワークショップも担当。
(実施件数：27件)
- ・資料整理ボランティア：図書やチラシの整理と美術館や所蔵作家の新聞記事のファイリング、データ化作業を行っている。

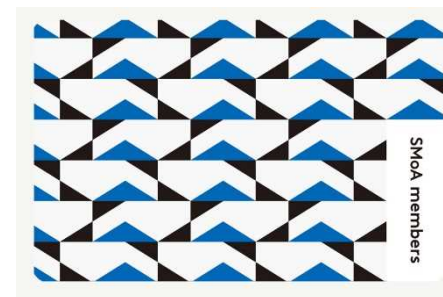
(週1回の活動)



■ 県美メンバーズ（年間パスポート会員）の運営

美術館の固定ファン、リピーターを拡大するために導入した年間パスポート会員制度「滋賀県美メンバーズ」について、会員向けに展覧会情報の提供や限定イベントを行った。

- 会員数： 1044人（うち 高校大学生22人、小中学生26人）
※約9割が滋賀県民（中でも美術館近隣の津市南部や草津市在住者が多い）
- 年会費： 大人2,400円、高校大学生1,600円、小中学生1,200円
- 特典： メールニュース・ニュースレター送付、展覧会情報郵送、館内カフェ利用割引 等



限定イベント	参加者数	実施内容
蘆花浅水荘と膳所焼美術館を訪ねて	20人	山元春挙ゆかりの地を、展覧会を担当した学芸員とともに訪ねる見学会
公園内の「石と植物」で、つくる	13人	びわこ文化公園内を散策して石や植物を採取し、生け込み作品づくり体験をするワークショップ
川内倫子 スペシャル・ギャラリートーク	30人	作家本人によるギャラリートーク

■ サポーター（寄付）制度

企業や県民から幅広く支援いただき、運営を充実していけるよう、寄付制度を設けている。

< 令和4年度実績 > 1,945,000円

【法人サポーター】

- 無料観覧デー・サポーター〈100万円〉：(株)木の家専門店 谷口工務店
- 次世代育成サポーター〈100万円〉：(株)木の家専門店 谷口工務店
- プラチナサポーター〈50万円〉：
- ゴールドサポーター〈30万円〉：
- サポーター〈10万円〉：(株)クマヒラ大津営業所、帝産湖南交通(株)、
中山倉庫(株)、滋賀県信用保証協会

【個人サポーター】

- ゴールドサポーター〈3万円〉 : 2名
- サポーター〈1万円〉 : 6名

木の家専門店 谷口工務店フリーサンデー

無料観覧デー・サポーターの企業の名前を冠し、令和4年7月3日から毎週日曜日は「木の家専門店 谷口工務店フリーサンデー」のネーミングで、どなたでも常設展示を無料開放している。

毎回250人程度の利用があり、図書館利用や公園に遊びに来たついでなど、特に、小さな子どもを連れた家族連れの様子が多く見られるのが特徴であり、気軽に美術館を体験するきっかけとなっている。

8 情報発信・広報

情報発信・広報

多様な媒体の活用により、展覧会情報などの発信に努めた。

□プロモーション：プレスリリース、ウェブサイト全面更新、オンライン美術館開設 など

□広告宣伝：JR瀬田駅構内・駅前広場・びわこ文化公園内の広告掲示、交通広告、エフエム京都CM など プレス説明会



広報媒体	帝産バス	近江鉄道	近江鉄道バス	京阪電鉄	リビング滋賀	エフエム 京都	アットプレス
内 容	車内広告 (97台)	駅張り (3駅)	バスラッピング広告 (1台)	駅貼り (8駅)	14万部 ポスティング	後援名義 CM放送	プレスリリース配信

□パブリシティの成果

< ウェブ媒体記事掲載 >

アートアジェンダ、インターネットミュージアム、和楽web、FASHION PRESS、美術屋 百兵衛、美術展ナビ、artscape、JDN、チエキポンポスト、びわ湖大津トラベルガイド、日刊滋賀県、M KYOTO など

< 新聞特集記事掲載 >

朝日新聞（関西文化面での特集記事）、京都新聞（特集記事）、中日新聞、読売新聞、毎日新聞 など

< 雑誌記事掲載 >

アートコレクターズ、Leaf、まっぷる、芸術新潮、美術の窓、月刊コロンプス、地域創造レター、旅の手帖、美術屋・百兵衛、びわこと、Duet など

< テレビ・ラジオ >

NHK大津放送局、びわ湖放送、KBS京都ラジオ、NHK日曜美術館アートシーン など

< YouTube番組 >

MEET YOUR ART

9 連携（2021年再開館以降の主な事例）

■企業・大学・自治体等との連携強化

□ 大学との連携

- ・龍谷大学 先端理工学部「星空」をテーマにインタラクティブコンテンツの展示
- ・成安造形大学 館内で、学生主体による親子を対象としたワークショップを開催
- ・滋賀県立大学 環境科学部「竹の会所およびたけともミライ」展
地域共生センター「ふるさと絵屏風大集合」展
- ・立命館大学×滋賀県立大学 「建築学生から見える滋賀の現在と未来展」展示 とギャラリートークイベント

□ 自治体との連携

- ・大津市・大津市観光協会 「山元春拳とあわせて膳所のゆかりの地を巡る見学会」開催
- ・草津市 「アートフェスタくさつ」でワークショップ開催
- ・守山市 「ルシオール・アート・キッズフェスティバル」でワークショップ開催
- ・県・企画調整課 立命館大学連携イベント「ビブリオパーク」開催
死生懇話会関連企画トークイベントIn美術館
- ・県・文化芸術振興課 「滋賀をみんなの美術館に」プロジェクト 展示やワークショップによる成果発表
びわ湖ホールとのコラボレーション企画 「北村朋幹×ジョン・ケージ」
「美の糸口ーアートにどぼん！」開催
- ・県教育委員会 「高校美術教員研修会」で保坂ディレクターが講義
- ・県立膳所高等学校 保坂ディレクターが美術に関する授業を実施

■ 企業・大学・自治体等との連携強化

□ 経済界との連携

- ・公益社団法人びわこビクターズビューロー 保坂ディレクターが理事に就任
- ・文化経済フォーラム滋賀 保坂ディレクターが幹事に就任
- ・株式会社 木の家専門店 谷口工務店 全国学生設計コンペ木の家設計グランプリ2022を美術館で開催
社内研修会で保坂ディレクターが美術に関する講義を実施
- ・京阪ホールディングス（株） 京阪沿線ぶらり芸術（アート）めぐりの関連施設として参加し、アート講座で保坂ディレクターが講演
- ・公益財団法人平和堂財団 石と植物にちなんだロビーコンサートを開催
- ・帝産湖南交通株式会社 美術館ロビーにバス時刻表を表示するデジタルサイネージを設置

□ 文化施設との連携

- ・びわ湖ホール 保坂ディレクターが運営財団の評議員に就任
石と植物にちなんだロビーコンサートを開催
- ・滋賀県立琵琶湖博物館 石と植物において自然史的観点での解説文を執筆
- ・滋賀県立陶芸の森 保坂ディレクターが理事に就任
- ・美の魅力発信 5 館ネットワーク設置
県立施設（美術館、琵琶湖文化館、安土城考古博物館、琵琶湖博物館、陶芸の森）間の連携を構築

□ びわこ文化公園連携

- ・埋蔵文化財センター 埋蔵文化財センター50周年記念講演会
- ・埋蔵文化財センター・図書館 石と植物展連携講演会開催

文化観光推進法に基づく文化観光拠点として認定（2021年度～2025年度まで）

令和2年に施行された文化観光推進法に基づく、地域における文化観光を推進する拠点となる施設として、令和3年11月に文化庁・観光庁から全国41番目（公立美術館としては全国5館目）の認定を受けた。（計画年度 令和3年度から7年度）

拠点施設になると文化庁助成（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業）の対象となり、令和4年度から館内での信楽焼やアール・ブリュットを紹介する常設コーナーの設置や、多言語化対応などを行うこととしている。

④1 滋賀県立美術館文化観光拠点計画

計画作成・実施体制

文化観光拠点施設(設置者)： 滋賀県立美術館(滋賀県)
 文化観光推進事業者：
 (公社)びわこビクターズビューロー(地域連携DMO)、帝産湖南交通(株)、(株)国華荘、大津観光(株)、(株)紅鮎、塩野温泉

計画期間

2021年度～2025年度（5年間）

目標

- ・利用者数
2016年度 110千人 → 2025年度 160千人
- ・外国人利用者数
2021年度 1千人 → 2025年度 10千人
※10年後(2030年度)には10千人(10倍)
- ・利用者の満足度
2016年度 78.9%→2025年度 90% (+11.1%)
- ・周遊観光客の比率
2021年度 数値把握 → 2025年度 2021年度比50%増

文化観光拠点施設機能強化事業

- <1.文化資源の魅力の増進>
 - ・展覧会の充実と工房等を訪れる特別体験企画の実施
 - ・県内各地でのアール・ブリュット作品および映像の展示
- <2.文化についての理解促進>
 - ・多言語対応、二次元コードによる作品情報提供の導入
- <3.文化観光に関する利便の増進>
 - ・バス停移設や増便、Wi-Fi・キャッシュレス環境の整備
- <4.飲食、販売、宿泊等との連携の促進>
 - ・作品を販売できるポップアップギャラリー（ミニギャラリー）整備
 - ・地元事業者によるカフェ・ショップ運営
- <5.国内外への宣伝>
 - ・オンライン美術館の開設
- <6.施設又は設備の整備>
 - ・美術館庭園のリノベーション

文化観光推進事業費（5年間の計画ベース）

619百万円（うち、文化観光推進事業補助金184百万円）

計画区域

